

2021 TOEIC® セミナー 報告書

TOEIC® Speaking & Writing Testsを活用した
英語発信力強化の動機付けと仕組み作り

2021年 9月10日 (金)

TOEIC® Speaking & Writing Testsを活用した 英語発信力強化の動機付けと仕組み作り

2021年 9月10日(金) オンライン開催

事例発表 ① 中央大学 1

国際情報学部での英語4技能向上のための TOEIC® S&W導入

中央大学 国際情報学部 准教授 斎藤 裕紀恵 氏

事例発表 ② 文京学院大学 8

コロナ禍でのTOEIC® S&W実施： 学生の伸びを数値で実感

文京学院大学 外国語学部・文京語学教育研究センター (BLEC) 准教授 阿佐 宏一郎 氏
文京学院大学 文京語学教育研究センター (BLEC) 片岡 伸介 氏

事例発表 ③ 群馬県立女子大学 15

定期的なTOEIC® S&Wの受験を通して 発信能力を高める取り組み

群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション課程 教授 神谷 信廣 氏

国際情報学部での英語4技能向上のための TOEIC® S&W導入

中央大学 国際情報学部 准教授

齋藤 裕紀恵 氏



■ 情報の仕組みと情報の法学を学ぶ

まず、国際情報学部についてですが、本学部は情報の仕組みと情報の法学を中心に学ぶ新学部として2019年4月に誕生しました。現在開学3年目で、1年生、2年生、3年生の各学年約150人が在籍しています。英語プログラムとして1年生は「統合英語」、2年生は「情報英語」を設定しています。学部で強化している学びが「Information Technology & Law」であり、かつキャンパスが新宿区市ヶ谷にあることから、「Ichigayatamachi Link」を略した「iTL」が愛称となっています。

本学部は、「BYOD (Bring Your Own Device)」とあって、学生が自身のノートパソコンやタブレットを持参して授業を受けることが必須となっています。ですから開学当時は、キャンパスのロビーのような空間では、学生がノートパソコンを広げてプレゼンテーションの準備をする様子などがよく見られました。現在は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でキャンパスを訪れる学生数が限られていますが、少しずつ状況が落ち着き学生数がまた増えてきて、当時のような賑わいが戻るとよいなと心から思っています。

■ 英語4技能の育成を重視したアクティブ ラーニングとTOEIC® Testsの活用

まず、本学部の英語プログラムについてお話しします。私が1年生「統合英語」の授業をコーディネートしていますので、今回は「統合英語」を中心にお話させていただきます。

リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった各技能の向上とともに、ディスカッションやペアワーク、小グループでのグループ発表などを通して4技能を統合して使用するアウトプット型能力の向上を到達目標としています。

本学部で実施している TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)とTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC S&W)のスケジュールが資料1です。まず、入学時にTOEIC L&Rの団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下 IPテスト)を受験します。これをプレイスメントとして使い、成績によってクラスを分けています。1年生は1年間、「統合英語」を受講します。次に、1年生の学年末に TOEIC L&Rを受験します。これはプレイスメントとともに評価、つまり入学時に受けたときと比べてその後どのように英語力が変化したかを見るためにも使用しています。一方、TOEIC S&Wは、現段階ではプレイスメントとして使っています。後ほど少し詳しくお話ししますが、2021年1月に初めて実施しましたので、今後評価をどのように含めるかについて検討していくことになると思います。

(資料1)

ITLの英語プログラムとTOEIC® L&R, TOEIC® S&W	
入学時	TOEIC L&R (For Placement)
1年前期・後期	統合英語クラス
1年学年末	TOEIC L&R (For Placement & Evaluation) TOEIC S&W (For Placement)
2年前期・後期	情報英語クラス
2年学年末	TOEIC L&R (For Evaluation)

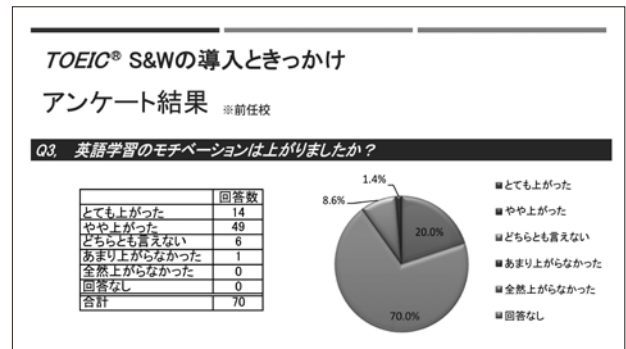
2年生は「情報英語」を受講し、学年末のTOEIC L&Rを評価として使っています。皆さんも同じような体験をされたと思うのですが、昨年はコロナ禍により急遽オンライン授業になりました。そのような状況により、TOEIC L&Rも学生たちは急遽オンラインで受験することになりました。TOEIC S&Wに関しても同じですが、本学部の学生はやはりパソコンを使い慣れているということでTOEIC S&Wも問題なく受験することができたのかなと思います。そういった意味で、これからの英語力というのはパソコンを使えるスキルともリンクしていくのかなと非常に感じています。

■ TOEIC® Speaking Test受験が英語学習のモチベーションアップに

TOEIC S&Wの導入ときっかけについてですが、私は、前任校でTOEIC® Testsのクラスを担当していました。そこで、希望する学生にTOEIC® Speaking Testを受けてもらいました。70人の学生が受験してくれ、その後の様子についてアンケートを取りました。「また受験したいか」との質問には約8割の学生が「とても受験したい」「やや受験したい」と答え、TOEIC Speaking Testを受験することがとてもよいモチベーションになっていると感じました。実際に、「TOEIC Speaking Testを受けたことによって英語学習のモチベーションは上がりましたか」との質問に関しても、「とても上がった」「やや上がった」という回答が約9割に上りました。これらの結果から、TOEIC Speaking Testを受験すること自体が学生のスピーキング力を上げるモチベーションにつながるの

はないかと考えました(資料2)。アンケートの自由記述欄には、「スピーキングに対してはあまり出来が良くなく、もっと勉強が必要だと感じた」との感想に続いて、「スピーキングをするためには、まずはリスニングが必要」という気づきがあったことも書いてくれています。また、「実際にあるテーマについて話すのがこんなに難しいのかと実感し、もっと練習したいと思った」「ビジネス関係について説明するときには語彙力が足りないのを痛感した」というように、実際にTOEIC Speaking Testというアウトプットの機会があることによって、自分が話せるのか話せないのか、客観的に自分の英語力を分析する機会になっていたのかなと感じました。

(資料2)



■ TOEIC® S&Wについて知るワークショップをオンラインで開催

そこで、中央大学国際情報学部でもTOEIC Speaking Testを導入することによって学生たちの英語学習に対するモチベーションを上げることができないのではないかと考えました。先ほど申し上げましたように、「統合英語」はリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能を統合して使用するアウトプット型の授業ですが、2019年度までは入学時と学年末にTOEIC L&Rのみを実施していました。ただ、4技能重視の授業を行っているわけですから、スピーキングやライティングの力を評価するテストも導入したいと考え、2020年度から1年学年末にTOEIC S&Wも実施することにしました。ですから、2021年1月の実施が初めてになります。

昨年入学した学生たちは急遽オンラインで授業を受

げざるを得なかったということで、TOEIC S&Wについて説明する機会がありませんでした。TOEIC L&Rは既に入学時にプレイメントとして受けていたのですが、TOEIC S&Wは知る機会がなかったわけです。そこで、オンラインによるワークショップを開催し、学生にTOEIC S&Wに馴染んでもらおうと考えました。その内容を、当日使ったスライドを使ってご紹介させていただきます。

ワークショップは2日間に分けて行いました。まず1日目はTOEIC Speaking Testの6つの問題形式について説明し、その後学生に体験してもらいました(2021年8月に問題形式が5つに改訂)。IIBCの公式サイトで公開されているサンプル問題と解答のコツを学生とシェアし、少し私のほうで簡単にかみ砕いて説明しました。例えば、分かりやすい発音とリズムで読めるかがポイントであること、意味のまとまりごとに正しく区切って読むこと、意味上重要な語を強く読む、重要でない語を弱く読むことなど、音声的な知識も必要になってくることを示します(資料3)。

(資料3)

TOEIC® Speaking Test	
サンプル問題	https://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about/format/sampletest/sw_challenge.html
Q1-2: Read a text aloud (音読問題)2問(採点スケール 0~3)	
スピーキングのQuestions1-2はアナウンスや広告などの英文を音読する問題です。1問につき準備時間が45秒与えられ、“Begin reading aloud now.”という音声がかえたら、45秒で音読してください。	
解答のコツ	
<ul style="list-style-type: none"> ● 分かりやすい発音とリズムで読めるか、がポイントです。 ● 意味のまとまりごとに、正しく区切って読む ● 意味上、重要な語を強く読む ● 重要な語とは、名詞、動詞、形容詞、副詞、疑問詞などです。 ● 重要でない語(冠詞、前置詞、助動詞、接続詞、関係詞など)は弱く、短く読みます。 ● 文の終わりは、上げ調子と下げ調子を使い分ける 	

その後、実際に問題を解いてもらいました。テキストの黙読と音読を45秒ずつ行い、その後各自の携帯で録音した音読の音声を確認してもらいました。このような音読練習は、今はワードやパワーポイントのスライドにあるディクテーション機能を使って行うこともできます。きちんと文字起こしができているか、話した声が認識されているかどうか、うまくテクノロジーを使いながら英語の勉強をするのもよいと思います。

このようにTOEIC Speaking Testについての概略の説明やテスト問題をうまく説明することができている

のは、私自身がIIBC主催の指導者向けワークショップ(Propell® Teacher Workshop for the TOEIC® Speaking & Writing Tests)に参加させていただいた経験があったからです。そこでの経験を基に、スムーズにワークショップを開催することができました。ただ、IIBCの公式サイトにもTOEIC S&Wについて詳細に説明されていますので、そのリンクを使って学生に周知すると効果的なのかなと思います。

2日目はTOEIC® Writing Testについて説明しました。3つの問題形式や問題数、解答時間、問題概要、評価ポイントなどを説明し、ライティングでもEメールに関するサンプル問題にチャレンジしてもらいました。画面にディレクションとEメールのメッセージが表示され、ディレクションに従ってEメールを読み、それに対する返信のEメールを作成するという内容です。IIBCの公式サイトに解答のコツが詳しく書かれていますが、例えば、「Identify the audience and using appropriate tone」「Use netiquette (network + etiquette)」なども説明しながら、学生にどのようにしてEメールを書くべきかをアドバイスしました(資料4)。

(資料4)

TOEIC® Writing Test	
サンプル問題	https://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about/format/sampletest/sw_challenge.html
Eメール作成問題(10分)	
ディレクションとEメールのメッセージが画面に表示	
ディレクションに従い、Eメールを読み、それに対する返信のEメールを作成	
解答のコツ	
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Identify the audience and using appropriate tone ▪ use netiquette (network + etiquette) ▪ develop and organize ideas effectively ▪ connect ideas using transition words and phrases ▪ vary sentence structure and vocabulary ▪ use correct grammatical structure ▪ follow spelling, punctuation, and layout conventions 	

先ほどのスピーキングと同様に、ライティングに関しても採点スケールの高い例が公式サイトに公開されていますので、その解答例を利用しながら説明しました。また、Eメールの書き方や、Eメールを書く際に便利な表現というのをおあわせて紹介しました(資料5)。なかなか学生はEメールの書き方についてきちんと習う機会がないため、こういった実際のコミュニケーションで求められるスキルをテストに向けての学習を通じて学ぶことができるのも非常に有益だと思います。

(資料5)

Eメールを書く際の便利な表現	
宛名	依頼する
Dear Mr. Stuart,	Could you let me know how…?
Dear Sir or Madame,	Would you…?.
To whom it may concern,	I would appreciate it if you could…
書き出し	結び
Thank you very much for your e-mail about…	Thank you very much again for…
I appreciate your e-mail.	I'm looking forward to hearing from you.
	Warm regards,

■ 1年でTOEIC® L&Rの平均スコアは約30点上昇

2020年度1年生の入学時と年度末のTOEIC L&Rの結果を一部ご紹介します。2020年入学時と2021年1月の結果を比較したところ、平均値が約30点上昇しました。中央値も上がり、特に最頻値が高くなっています。ただ、学部内には英語が上手でネイティブのように話せる学生と、ちょっとまだ英語は苦手という学生が混在していますので、かなり差があります。その点も今後の課題かと思えます。

TOEIC S&Wのスピーキング、ライティングのスコアは、IIBCの「TOEIC L&RとTOEIC S&Wのスコア比較表」を参考に、レベル感を確認しました(資料6)。

TOEIC L&R平均スコアを基準として、本学部のTOEIC S&W平均スコアと比較表の予測スコアを比べると、TOEIC Speaking Testは期待されるスコアより20～30点不足していることが分かりました。一方、TOEIC Writing Testに関してはほぼ期待されているところまで達しているのかなと思います。これからは、少しスピーキング力をつけていく必要があるかなと感じています。

(資料6)

TOEIC® Listening & Reading TestとTOEIC® Speaking & Writing Testsのスコア比較表

TOEIC® Listening & Reading TestとTOEIC® Speaking Testのスコア比較表			TOEIC® Listening & Reading TestとTOEIC® Writing Testのスコア比較表		
TOEIC L&Rのスコアレシジ	TOEIC L&Rの平均スコア	TOEIC Speakingの予測スコア	TOEIC L&Rのスコアレシジ	TOEIC L&Rの平均スコア	TOEIC Writingの予測スコア
950~990	975	170以上	960~990	980	180以上
880~945	919	160	890~955	920	170
815~875	845	150	825~885	855	160
745~810	780	140	760~820	790	150
675~740	710	130	695~755	720	140
605~670	640	120	625~690	655	130
535~600	570	110	560~620	595	120
465~530	500	100	495~555	520	110
395~460	430	90	425~490	455	100
325~390	370	80	360~420	400	90
16~315	285	70以下	300~355	350	80
			10~245	290	70以下

https://www.iibc-global.org/library/default/toeic/official_data/tr/pdf/score_comparison_list.pdf

少し興味深い結果が出たのでご紹介します。TOEIC S&Wを受験する際に海外滞在経験に関する質問があったのですが、海外滞在経験が6カ月未満の学生のTOEIC Speaking Testの平均スコアを基準として、海外滞在経験が6か月以上ある学生は、3人ですがそれより30点高い結果でした。さらに2年以上ある2人の平均スコアは55点高く、本当に数が少ないので何ともいえないのですが、滞在経験が長い学生ほどTOEIC Speaking Testのスコアが高くなる傾向があるようです。

■ 米国大学生とのバーチャルエクステンジでスピーキング、ライティングの機会を提供

ですから、本当は海外留学がスピーキング力向上の一番の近道なのだと思うのですが、現在はコロナ禍で海外留学ができない状況です。では、その中で何ができるかということで、現在私が実践している授業内容についてお話をさせていただきたいと思います。

1年生の「統合英語」クラスでは、セングージラーニング株式会社が出版している「Life4」というテキストを使っています。オーディオとビデオが付き、オンラインの宿題なども使いながら学習しています。ナショナルジオグラフィックから集めたトピックを教科書に反映しているため、とてもオーセンティックな内容が多いです。この「Life4」は4技能型の教材で、ライティングの内容も含まれています。例えば、カバーレターに関するトピックでは、学生にまず自分が希望するインターンシップ先のホームページをインターネットで探してもらい、そこにカバーレターを送るという設定で実際にカバー

レターを書いてもらいました。また、情報を強化している学部ということで、社会問題解決のためのスタートアップを提案するプレゼンテーションもオンラインで行いました。

2021年度からは「EnglishCentral」というオンライン教材も使用しています。アプリケーションも使えてとても便利です。発音、スピーキングを強化できる点と、オーセンティックなビデオを使って興味のあるトピックを選択できるという点が利点かと思います。

さらに、アメリカの大学で日本語を学ぶ学生とのバーチャルエキスチェンジを2020年度から行っています。2021年度も予定しているのですが、そこでは実際にアメリカの大学生と英語で交流をしてもらってスピーキングを経験します。また、ライティングの機会として交流後に毎回振り返りを英語で書いてもらいました。

資料7は、バーチャルエキスチェンジ後に学生が書いたフィードバックです。左側が1回目、右側は5回目終了後のものです。1回目終了後は「I felt a little bit nervous.」だったので「I couldn't speak properly.」そこで、「So, next time we talk with MSU students, I try to tell my opinion more properly, frequently, and friendly.」と活動を振り返り、最後にこうなりたいという希望を書いていました。その後、最後のエキスチェンジでは「We could spend more meaningful time and communicate with, and exchange our opinions.」と、回数を重ねることによってだいぶ学生は自分が成長したと感じたようです。

(資料7)

Student Name	Feedback after 1 st Exchange	Feedback after 5 th Exchange
YM	I thought I couldn't explain completely what I had planned to do. Because of the first time and I felt a little bit nervous(Feeling). I couldn't speak properly (Action). So, next time we talk with MSU students, I try to tell my opinion more properly, frequently, and friendly (Hope)	That was the fifth session and the last chance to talk with MSU students as part of our class at the university. Compared with the first session, we could spend more meaningful time and communicate with, and exchange our opinions. It was a very good experience. In this situation, Covid-19, we can't get a chance to meet or talk with foreigners. It ended that class with MSU students but, we still have some ways to contact them. We can use SNS and I want to continue to communicate with them.

■ VRを活用した英語授業とスピーキング力

もう一つ、私が国際情報学部のゼミで取り組んでいる、EdTechと英語についてご紹介させていただきます。ゼミでは、資料8のようにVRを使った英語授業体験を行い、授業体験の前後にTOEIC Speaking Testを受験してもらいました。もちろんこれはVRを経験しただけの結果ではないのですが、ただ、VRの授業はわずか2カ月未満だったにも関わらず、ゼミ生8人のうち、スコアが20点上がった学生が3人、10点上がった学生が2人、平均で20点スコアが上がりました。また、IIBCが公開する「Proficiency Level*」の評価も上がっていました。TOEIC Speaking Testを授業体験の前後に受けたことで、学生自身もVR体験が自身にどのように影響したのかを客観視することができたのではないかと思います。VRの授業そのものも学生たちは夢中になって取り組んでいました。VRを使った英語の授業が多少は学生のスピーキング力向上に役に立ったのではないかと思います。

(資料8)



モチベーション向上のためのEdTech利用:
ゼミでのVRとTOEIC® Speaking Test活用

*Proficiency Level に関しては、巻末に掲載したQRコードからご確認ください。

■ TOEIC® S&Wの効果的導入のためのロードマップ

本学部のTOEIC Speaking Testの平均スコアは、TOEIC L&R平均スコアから期待される目標スコアまで20～30点の差があります。そこで、例えば2022年1月実施時には現在の平均スコアより10点以上、2023年1月には20点以上、2024年1月には30点以上の上昇を目標に設定して、実際にどのようにTOEIC S&Wを活用してスピーキング力を上げることができるかを検討していきたいと思います。

TOEIC S&Wの効果的導入のためのロードマップが資料9です。まずは、2021年度後期にTOEIC S&Wのワークショップを実施します。2021年1月に初めてTOEIC S&Wを実施しましたが、2021年度も同様に受験前に実施する予定です。前回は参加者がそれほど多くなかったため、今後はできるだけ多くの学生に参加してもらえよう、本学のラーニングマネジメントシステム (LMS) 上での声掛けのほか、各授業でも案内してもらうなどの工夫もしていきたいと考えています。

(資料9)



私は1年生の「統合英語」をコーディネートしていますので、LMS上に1年生に向けてメッセージを発信できるページがあります。それを活用して私から1年生全体に後期から少しずつ、例えば1週目はTOEIC Speaking TestのQuestion 1-2、2週目はTOEIC Speaking TestのQuestion 3-4というように動画のリンクなども貼りながら、TOEIC S&Wの内容について案内していきたいと考えています。

次にTOEIC S&Wの実施、そして受験後のアンケート

です。学生が受験後どのように感じているかを知ることが大事だと思います。さらに、今後どのように勉強を進めていきたいかなど学生自身がセルフリフレクションすることも非常に重要です。具体的には、LMS上にセルフリフレクションのためのシートなどを用意して記録できるようにしたいと考えています。

最後は、TOEIC L&RとTOEIC S&Wの成績を分析し、今後の施策について検討をしていきたいと考えています。

まだ導入1年目で1度しか行っていないため課題は非常に多いのですが、せっかく学生たちが受験するTOEIC S&Wですから、それを有効にカリキュラム改善などに活用し、学生のスピーキング力とライティング力をさらに伸ばしていきたいと考えています。

質疑応答

Q 貴学のTOEIC S&W導入にあたって重視したことを教えてください。

A まず、TOEIC L&Rを既に受けていたということがあります。同じテストプログラムですと、TOEIC L&Rでこれくらい取れているとTOEIC S&Wもこれくらい取れるべきじゃないかという期待値が分かり、スコアを比較することもできます。2点目は、TOEIC S&Wに関しては既に実績のあるテストで学生が就職する際にも使える点です。また、先ほどのEメール作成問題のように、ビジネス英語にも通じているので学生たちが社会人になったときに使える力も受験によって少しずつ得ることができると思いました。最後まで大事な点ですが、スピーキング力だけではなくライティング力も両方測れるということでTOEIC S&Wを選びました。

Q TOEIC S&Wのスコアアップに向けて試験対策を行っていますか。行っていない場合、効果的なスピーキング力向上のコツがあればご意見ををお願いします。

A まずはワークショップの開催です。参加者は多くなかったものの、参加した学生はスコアがよかったという結果も出ていますので、ワークショップを開催するだけでもTOEIC S&Wに対する意識が高まるのかなと思います。また、実際に学生がスピーキングやライティングをする機会にもなると考えています。

また、2021年度の1年生が入学した際に、私のゼミ生が「EdTech + 英語」をテーマに自分なりのEdTechを活用した自己学習方法についてガイダンスをしてくれました。今は多様なコンテンツが身近に溢れていますから、身近にある様々な教材をどのように使って英語学習ができるかということを学生が知る機会があるとよいアウトプットにつながるのかなと思います。

私は留学プログラムも担当していますが、去年はコロナ禍で実施することができませんでした。そこで、バーチャ

ルエクステンジを実施したのですが、学部内の国際交流サークルの学生がこの交流活動を継続してくれています。これはサークル所属の学生だけではなく、LMS上で全学年にシェアをして自由に参加できるようになっています。ほかにも、各国のAIに関する公共政策について英語で学んで英語で発表する「iTLAI研究会」などの勉強会も立ち上がっています。このように今後も、私自身が何かきっかけを作って、後は学生が自主運営できるようサポートしていくかたちで少しずつ取り組んでいきたいと思っています。

Q TOEIC S&Wスコアの取得後、学生へのフィードバックはどのようにしていますか。

A これも今後につなげないといけない課題です。まずはTOEIC S&Wの結果が届いたらどのように結果、スコア表を見るべきかを伝え、加えて学生が振り返りをするための機会をLMS上に設けてシェアしようと考えています。そしてその振り返りを見て、私からもフィードバックを学生に与えることができればと思います。学生全体の傾向を見て、こんな勉強した方がいいよといったことをLMSでシェアできたらと考えています。

Q ロードマップの作成の経緯を教えてください。

A 学部や大学からの指示や、今回の発表のために作ったものではありません。私自身が成績を見て、何かしないといけないと考え作成しました。TOEIC Speaking Testのスコアが思っていたより取れず、学生自身も「スピーキング力は大事だ」「スピーキング力を伸ばしたい」と強く望んでいます。まだ1回実施しただけなので十分な対策ができていたとは言えません。いろいろな施策があると思いますので、結果を見てこれからどうするべきかというロードマップを作りました。

コロナ禍でのTOEIC® S&W実施： 学生の伸びを数値で実感



阿佐 宏一郎 氏 片岡 伸介 氏

TOEIC® Testsのスコア分析を通して

文京学院大学 外国語学部・文京語学教育研究センター (BLEC)
准教授

阿佐 宏一郎 氏

■ 英語4技能の伸びを見るために TOEIC® Testsを実施

本日は文京学院大学外国語学部におけるTOEIC® Testsの実施状況と学部概要、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)とTOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W)のスコア傾向、TOEIC L&RとTOEIC S&Wの伸びの比較、英語のGPAの上位・下位群での分析、4技能の伸びの指標として発見できたこと、コロナ禍でTOEIC Testsを継続してきた苦労話について順にお話ししたいと思います。

まず、本学におけるTOEIC L&R、TOEIC S&Wの団体特別受験制度 (IP: Institutional Program、以下IPテスト) 実施状況です (資料 1)。TOEIC L&Rは入学時と1~4年生の前・後期末での受験が必須となっています。加えて、自ら選んだ時期に任意で受験することができます。オンライン受験の際には、AIによる不正行為を検知するAI監視サービスを活用しています。

(資料 1)

2018年度入学生
TOEIC® L&R・S&W実施状況 (必須のもののみ)

	2018年度 (1年生)	2019年度 (2年生)	2020年度 (3年生)	2021年度 (4年生)
S&W	● (入学時)		● (後期末)	
入学時L&R	●			
前期末L&R	●	●	●	●
後期末L&R	●	●	●	○

TOEIC S&Wは、2018年度入学生から4技能の伸びを見ることを目的として、TOEIC L&Rに追加するかたちで導入しました。コロナ禍においてもオンラインで実施し、入学時と3年生後期末の受験が必須となっています。

TOEIC S&Wについては、一部で「1年生には難しく過ぎて皆が低スコア帯に固まってしまい、クラス分けには使えない」との懸念の声があると聞きます。本学のデータを紹介しながら、この点について考えたいと思います。過去4年分のそれぞれの年度の1年生のTOEIC® Speaking Testのスコア分布を見ると、正規分布と言えるほどではありませんが、なだらかな山になっています。4年間分を見る限りは、低スコア帯に固まっているということはありません。

TOEIC® Writing Testについても同様に、スコア分布はなだらかに分布しています。つまり、スピーキング、ライティングともにクラス分けで十分使えるデータだということです。ただ、本学では現状テスト結果の納期の都合上クラス分けには使用していません。今後、クラス

分けへの活用を再検討していきたいと思っています。

■ インputが充実した必修科目

英語4技能の伸びについて説明する前に、必修科目を紹介します。資料2は、本学部2年生の英語必修科目の時間割です。4技能のうちリスニングとリーディング、つまりインputの時間が豊富に用意されていることが分かると思います。リスニングとスピーキングに該当する「Communicative English」と「Oral Communication」の授業は、全て英語母語話者の教員が行っています。「Reading」の授業も、上位クラスは3割程度を英語母語話者の教員が行っています。「Integrated Skills」は文法と語彙の授業で、全て日本人の教員が行っています。「Writing」の授業は、英語母語話者の教員が8割、下位クラスについては日本人の教員が担当しています。

(資料2)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1限		Integrated Skills II-a R			
2限	Communicative English II-a L, S		Reading II-a R	Communicative English II-a L, S	Writing II-a W
3限					Oral Communication I-a L, S
4限					

大学4年間での英語4技能の伸びを見たいというのが、本学でTOEIC S&Wを導入した理由です。ですから、最後の受験は卒業間際に行うのがベストなのですが、4年生は卒業論文執筆や就職活動などで忙しく、受験率がかなり低くなることも予想されます。一方、3年生は英語の必修科目としてライティングの授業もあることから、3年生後期末時点を大学における英語学習の1つの節目として考えることにしました。

2018年度入学生が、入学時と3年生後期末の両方でTOEIC S&Wを受験した初めての学年になります。この2018年度入学生についてTOEIC L&R、TOEIC S&Wの英語GPAの伸びを比較してみたいと思います。

まず、本学におけるTOEIC L&Rスコアの傾向を紹介

します。リスニングはリーディングの約1.5倍のスコアを取る学生が多い状況です。例えば、TOEIC L&R500点とすると、リスニング300点リーディング200点という内訳になります。4年生300人余の在学中におけるTOEIC L&R最高得点の平均スコアの内訳を見ても、同様にリスニングの方が高くなっています。

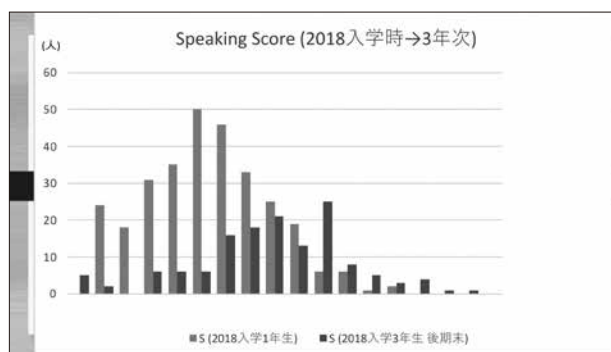
約3年間でのTOEIC L&Rスコアの伸びは平均195.9点でした。リスニングとリーディングの伸びの内訳は、リスニングが平均107.6点、リーディングは平均88.3点となっており、リーディング力の向上が本学部の課題です。こうした、TOEIC L&Rにおける「L > R」というスコア傾向は、先ほど紹介した必修科目の構成をある程度反映したものと考えることができます。

■ スピーキングを重視した必修科目が多いものの、スコアの伸びはライティング>スピーキング

次にTOEIC S&Wについて見てみます。今回の比較分析対象となるのは2018年度入学生のうち、2021年7月時点で在学中で、かつTOEIC S&Wを入学時と3年生末に両方受けている学生を抽出した137人となります。

TOEIC S&Wは、スピーキング、ライティングともにスコアの範囲は0~200点です。2018年度入学生のTOEIC Speaking Testのスコア分布では、入学時と比較して、3年生後期末になると山のピークがより右、高得点の方にスライドしています(資料3)。

(資料3)



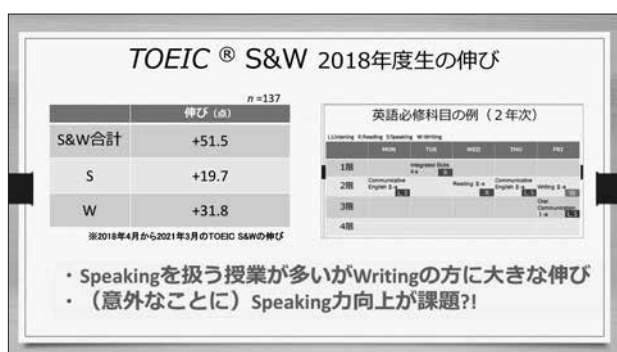
TOEIC Writing Testについても同様です。入学時は全体的に左寄りに山のピークがあったのが、3年生末では右にピークが来ています(資料4)。

(資料4)



TOEIC S&Wスコアで見ると、平均51.5点伸びています。スコアの分布範囲は入学時から3年生後期末になるとさらに広がっており、低スコアの学生をいかに伸ばすかが課題といえます。それぞれ個別の伸びを見てみると、スピーキングは平均19.7点、ライティングについては平均31.8点伸びていました。先ほどご覧いただいた2年生の必修科目では、リスニングとスピーキングの指導が手厚くなっていると考えていましたが、TOEIC S&Wのスコア分析から考えると、週1回しか授業がないにも関わらずライティング力が意外にも伸びていることが分かります。スピーキング力の向上が本学部の課題となってくるかもしれません(資料5)。

(資料5)



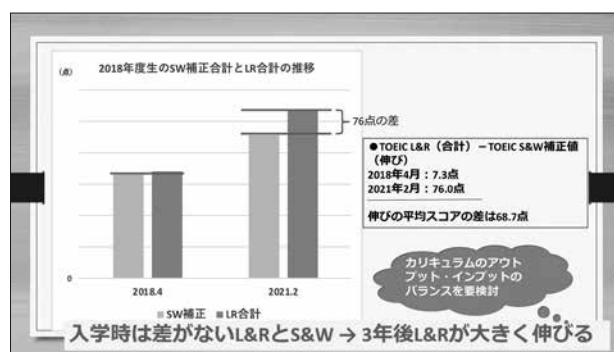
■ TOEIC® S&WとTOEIC® L&Rを 同じ土台で比較する独自補正

TOEIC S&WとTOEIC L&Rのスコアを分かりやすく比較し雑感をつかむため、得点範囲の点から補正して考えてみました。これは公式ではなく、あくまで私独自のスコア計算方法です。最高スコア990点のTOEIC L&Rと

400点のTOEIC S&Wを同じ土俵に乗せて概観を捉えるため、比率で計算してみました。400点を2.475倍すると990点になるという単純なアイデアですが、これを非公式の補正として考えたいと思います。

TOEIC S&Wスコアの3年間の伸びの平均51.5点を2.475倍すると、127.2点となります。入学時における実際のTOEIC L&RスコアとTOEIC S&Wの独自補正值(以下、TOEIC S&W補正值)はほぼ同じ平均スコアでしたが、3年生後期末時点になると、TOEIC L&Rスコアの方がTOEIC S&W補正值より76点とだいぶ伸びており、伸びの平均スコアの差は約68.7点ありました(資料6)。

(資料6)



スピーキングとライティング、つまりアウトプットする力は伸びにくいということも考えられますが、カリキュラム改革の際には4技能のバランスを検討する材料の1つとして、これらの分析結果を活かしたいと思っています。

■ 英語GPAの上位・下位群で 英語の伸びを比較

続いて、GPAの上位群と下位群で英語力の伸びを見ました。成績のAAが4点、Aが3点、Bが2点、Cが1点、不合格のFが0点として、成績上位群(A以上)と下位群(B以下)で要因が何か変わるのかを分析してみます。

TOEIC S&Wスコアを入学時と3年生後期末で比べると、上位群は平均53.0点の伸びが見られました。ただ、入学時にTOEIC S&Wスコアが低い学生は、3年後の英語科目のGPAも低迷している部分があるため、初年次の底上げとして何かしらの対応が必要だと考えられます。ス

コアに応じたレベル別クラス分け以上に、さらに細かい対応を実施していかなければいけないと思っています。

また、ライティングのみを見ると、上位群は平均で30.3点伸びています。入学時のスコア平均はProficiency Level*のレベル4に相当します。レベル4は「意見を述べ、簡単な情報を提供する能力の発展段階にあり、コミュニケーションができることは限られている」という評価です。一方、3年生後期末の平均スコアのProficiency Level*は「簡単な情報を提供し、理由や例をあげて、または説明をして意見を裏付けることは部分的にはできる」というレベル6に相当しています。つまり、本学部で英語の成績A以上を維持することで、レベル4から6まで成長できるという英語力の具体的な成長を示すことができます。これがTOEIC L&RとTOEIC S&Wの英語4技能を受験するメリットだといえます。

TOEIC S&Wスコアにおける3年間の伸びの平均は、GPA上位群が53.0点、下位群は50.3点ですから、差はそれほどありません。一方で、TOEIC L&Rスコアの伸びの平均は、GPA上位群が224.5点、下位群が173.7点と差がありました(資料7)。入学時におけるTOEIC S&W補正值と実際のTOEIC L&Rスコアを比較すると、上位群はTOEIC S&W補正值の方が高く、下位群は逆となりました。スピーキングとライティングのアウトプット力の点数の高さによって、GPAの上位、下位を決定付ける何かしらの要因があるのかもしれませんが。

(資料7)



■ TOEIC® Testsで具体的な伸びを確認 カリキュラム改善の材料にも

TOEIC S&Wを実施するメリットは、具体的な数値で4技能の伸びを確認できるという点です。さらに、現状のカリキュラムにおける4技能の構成とスコアが必ずしも一致しないというような意外な発見もありました。カリキュラム改善チームにこうしたデータを共有し、これからも検討・改善を続けていきたいと考えています。

*Proficiency Level に関しては、巻末に掲載したQRコードからご確認いただけます。

TOEIC® Testsのサポート体制

文京学院大学 文京語学教育研究センター (BLEC)

片岡 伸介 氏

■ 受験トラブルや問い合わせを減らすために

ここからは、TOEIC L&RとTOEIC S&WのIPテスト実施・運用に関する本学部における取り組みを紹介いたします。サポート業務の目的は2つあります。1つは、トラブルや問い合わせの低減です。この点については、オンラインによる試験方式が変わったことによって実際に我々が個別に対応することが難しくなり、学生自身に自力解決させなくてはいけないという、大きな発想の転換が必要となりました。2つ目は、受験率の向上です。いろいろな事情で受験できない、あるいはオンラインになったことによって受験体制が整わない学生に対してサポートをしています。

1点目のトラブルや問い合わせの低減については、マニュアルを整備しました。マニュアルには、学生が受験の流れを理解できるよう、受験当日だけではなくその前後において必要な準備についても分かりやすく説明することが求められます。ですから、正しく受験するための流れや手順を細かく確認しました。具体的には、IIBCの「受験のしおり」をよく読んで受験の流れを理解し、動作環境に合ったパソコンを用意するところから始まります。その後、各学生に配信されるメールをスマホではなくパソコンで開かせるようにして、「Authorization Code」や「受験者サイト」への適切なアクセス方法を知ってもらいます。そして、アンケートに迷わずに回答させて、やっとテストを適切に開始させることができます。こうした手順を誰にも頼らずに自分の力だけでできるようなマニュアルの整備を目指しました。

マニュアルはPDFデータにして学内サイトに掲示しています。トラブルなく進んだ場合の正常系の動きを示しながら、画面の一つひとつに対して想定される問い合わせなどを都度補足しています。質問があった場合は、問い合わせの一次受けとしてIIBCのヘルプデスク、二次受けとして大学の担当部署の連絡先を提示しています。理想

として、動画で一連の操作を紹介できればより分かりやすいのではと考えています。

続いて、実際にあった問い合わせ内容をいくつか紹介します。もちろん、オンラインテスト自体は一般的なICTの知識があれば問題なく受験できるような設計になっており、どの学生も一度経験することで理解できると思います。しかし、その1回目を対面でサポートできないのがコロナ禍におけるテスト実施の難しさではないでしょうか。特に、高校を卒業したばかりの新入生にとっては、マニュアルの手順通り自力でパソコンを操作して受験までに辿り着くにはいくつかのハードルがあるようです。

例えば、「Authorization Code」や「受験者サイト」といった特有のものが分かりにくいようです。これらは、大学から付与するお知らせメールで説明しているのですが、そもそも新入生は大学からのメールの扱いに不慣れだったり、メールを確認できていなかったりすることも多いです。

テストが動作しないという問い合わせもよくあります。原因は「受験のしおり」をよく読んでおらず、ブラウザの種類が適切でなかったために発生するトラブルなのですが、そもそもブラウザにも様々な種類があるということを知らないということもあります。

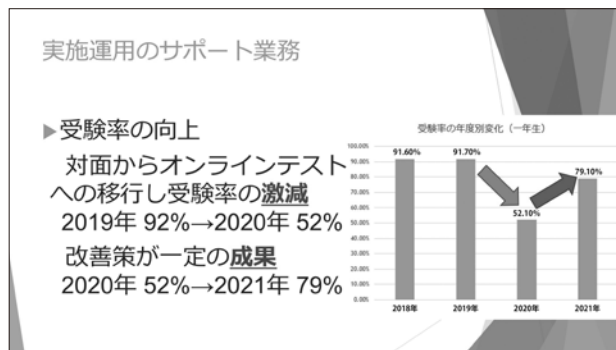
インターネットの回線速度が遅くて受験がままならない、という問い合わせもあります。ネット環境は様々なので一概には言えませんが、例えば無線LANのルータの近くにパソコンを持って行ってみたり、受験中は家族の方にインターネットの利用を控えてもらったりなどの対応をお願いすることもあります。

音声聞こえないという場合は、インターネットの回線速度やパソコン本体の音量設定の問題が考えられます。また、無線通信イヤホンとの接続が切れている、バッテリーが切れているといった原因もよくあるため、受験の際は有線イヤホンの利用を推奨しています。入院中や運転免許合宿中のためパソコンが手元にないという問い合わせもあります。これらの経験を踏まえて、引き続きマニュアルを整備していきたいと思います。

■ コロナ禍で低下した受験率を向上させる施策

続いて、受験率向上に関する取り組みです。コロナ禍により、指定日時に教室に集まって一斉受験する方式から各学生が自宅で受験するオンライン方式に変わったことで、それまで9割以上だった受験率が2020年度は5割程度にまで大きく落ち込みました(資料8)。

(資料8)



この受験率を改善しようと、学生たちに受験の意義を強く訴えました。受験案内の際には、現在の英語力を可視化する重要性や、3年生で再度同じテストを受けて大学での学びによる伸びを比較することの意義を訴え、受験率の向上を図りました。

加えて、受験を義務として意識させる仕組みづくりも必要です。パソコンなどの受験環境の整備を通して、受験できない理由を減らすのも1つの仕組みです。総務省の統計によると、2019年時点におけるパソコンの世帯普及率は70%を切っているとのことですので、約3割の学生は自宅にパソコンがないという前提に立って考えなければいけません。大学がパソコンを無料で貸与したり、受験のためにコンピュータ教室を開放したりするといった施策を実施しています。

受験忘れの予防策として受験日直前にメールや学内連絡でリマインドを送っています。ほかにも、受験しない場合は「不受験理由書」を書かせています。「不受験理由書」を書くのが大変だから受験しておこうという発想になってくれることを期待しています。こうした取り組みにより、2021年度新生を対象に実施したテストでは受験率を8割ほどまで回復させることができました。

ただし、コロナ禍前の受験率9割以上には至っていません。引き続き受験率向上を目指していく必要があります。具体的な対策としては、受験期間中の早めの受験を促進させることが挙げられます。以前は1日限りの受験機会でしたが、オンラインテストでは24時間受験できる利便性を活かし、各学生の都合に合わせた日や時間帯で受験できるよう長めの受験期間を設けました。しかし、これが裏目に出てしまい、受験日時が期間の最後に集中する傾向が出ています。学生サポートの立場からすると、例えば受験期間最終日の夕方以降にトラブルが発生した場合、我々にできることは限られてしまうため、こうしたぎりぎりでの受験は推奨できません。最終日深夜に単純なトラブルが発生したために受験を諦めたケースが不受験理由書からも多々見られており、早めの受験を促す学生の意識改革が必要だと感じています。

質疑応答

Q TOEIC S&Wを導入した経緯の詳細と選定の決め手を教えてください。

A 4年前(2017年)は大学入学から卒業までの英語4技能を具体的なエビデンスをもって評価することが求められており、様々な外部試験を検討しました。高い認知度を誇り、実際の英語力とスコアの関連性も確かなTOEIC L&Rを既に継続していましたので、TOEIC S&Wも導入することで英語力をさらに具体的に把握することに役立ち、就職する際においても学生のアピールになるだろうと判断しました。

Q TOEIC S&Wを受験した学生の反応や影響を教えてください。

A 「とても難しかった」という声もありますが、私としては、問題の形式がビジネスや実用面に向いているため、高校や大学で学んだ内容をどのようにアウトプットすればよいのかという点で1つの目標設定になっていると感じています。さらに、3年生後期末での受験に向けて、大学でどれだけ英語力を伸ばせるかという点でも目標になっていると思っています。

Q TOEIC L&RとTOEIC S&Wのスコアやその伸びに相関関係があるとすると、そのどちらかを受験すればよいという考えもできると思いますが、両テストを受験するメリットは何でしょうか。

A もちろん相関関係は出てくると思いますが、本日紹介した補正値は公式ではありません。また、相関があるというエビデンスにもなりません。実際のスコアだからこそ、説得力があるということではないでしょうか。

また、学生からすると、TOEIC S&Wを実際に受験して成績の伸びを数値で確認することが、その後の英語学習へのモチベーションアップや自らの英語力の客観的

な把握にもつながってきます。ですから、どちらか片方を受ければよいのではという考えは大学側の視点になるかと思います。本学部としても、今後テストを継続実施することでデータを取り、両方受験することのメリットを見つけていきたいと考えています。

Q 学年が上がるにつれて受験率が下がる傾向を改善する工夫はありますか。検討中の受験率向上施策について教えてください。

A 3年生後期末のTOEIC S&W受験は2020年度が初めてでしたので、それ以前の施策はありません。ただ、既に導入しているTOEIC L&Rについては、800点、900点を超えた学生には学長からの表彰、奨励金を出していますし、授業の成績の一部にも加えています。今後は、TOEIC S&Wもこうした表彰制度や成績として認めるような施策を作っていく必要があると思っています。

Q 不受験理由書を提出せずに不受験だった場合、ペナルティーはありますか。

A 不受験理由書を書くという手間そのものが、学生にとってのペナルティーだと言えます。受験を促すリマインドの際に不受験理由書を必ず書くよう再三告知していますので、意図した目的は達成されていると思っています。

定期的なTOEIC® S&Wの受験を通して 発信能力を高める取り組み

群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション課程 教授 神谷 信廣 氏



■ 実践的英語力と高い コミュニケーション能力の育成に向けて

最初に、群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部の概要についてお話しします。本学部は2005年4月に開設しました。1学年の定員は60人です。2年生から、英語学・言語学の諸分野を学び英語を深く理解する力を養う「英語コミュニケーション課程」と、経済・経営・政治・行動科学などの専門知識を学ぶ「国際ビジネス課程」のどちらかを選択して学修を進めていきます。常勤教員は各課程8人、計16人います。英語コミュニケーション課程に所属する8人のうち英語母語話者は2人ですが、教員間の会議などは全て英語で行っています。

国際コミュニケーション学部では「実践的な英語力、高いコミュニケーション能力並びに人文・社会科学分野の専門的知識を備えた、国際社会で活躍できる女性リーダーを育成する」ことをカリキュラム・ポリシーとして掲げています。実践的な英語力や高いコミュニケーション能力を培うため、初年次から高度な英語力を身につけ、英語での情報を的確に理解し、異文化間でも意思疎通を図ることができる力を育成するカリキュラムを用意しています。

■ 英語4技能をバランスよく配置した カリキュラム

本学部独自の英語教育プログラムとして、「BELLS

(Blended English Language Learning System)」があります。このプログラムの特色には、「多彩な英語科目群」「オールイングリッシュの専門科目とゼミナール」「TOEIC® Testsによる英語力の測定」のほか、「100万語多読プログラム」「多彩な自律学習」「少人数制クラス」「高いネイティブ教員率」「最新のCALL設備」「手厚い留学サポート制度」が挙げられます。今回は、最初に述べた3つを中心に説明します。

まず、1～3年生の英語科目について紹介します。「言語知識」「文法」「発音」「話す(やり取り・発表)」「聞く」「読む」「書く」「TOEIC・TOEFL」「上級スキル(職業、その他)」の9つの分野があり、英語4技能をバランスよく配置し、カリキュラム全体としての体系性を確保しています。

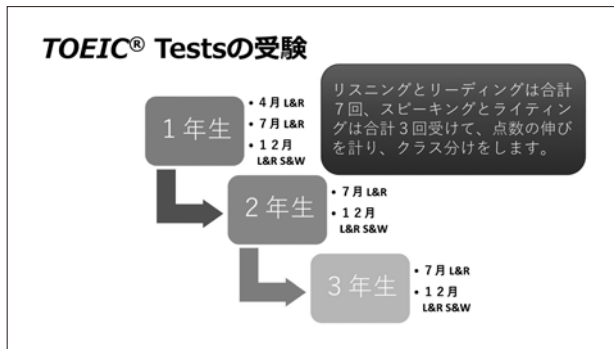
英語に関する科目履修数は、1年生は前期7コマ、後期8コマ、2年生は前期7コマ、後期6コマ、3年生は前・後期それぞれ2コマの計32コマが必修となっています。3年生からはゼミが始まり英語に多くの時間を取れなくなるため、「Presentation」や英語のニュースを読む「Current News Issues」など難度の高い授業を必修科目として設定しています。

2つの課程の英語科目は共通ですが、専門科目が異なります。英語コミュニケーション課程の専門科目は、3分の2が英語で授業を行っており、全て英語で行われる専門科目だけを履修して卒業することも可能となっています。

続いて、TOEIC Testsの団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)による受験についてです。資料1のように、3年間でTOEIC®

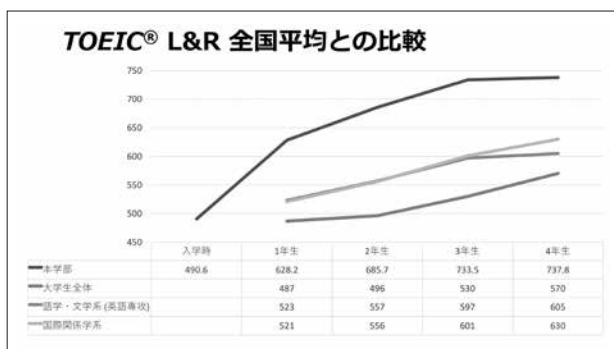
Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)を計7回、TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W)を計3回受験させて成績の伸長を測り、クラス分けに活用しています。

(資料1)



資料2は、TOEIC L&Rスコアの伸びを示したグラフです。過去3年間の本学部卒業生の学年別平均ベストスコアを、IBCの「TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2021」より抜粋した、2020年度の大学生の学年別、専攻別の平均スコアと比較しました。大学生全体はもちろんのこと、英語専攻や国際関係学系の学生よりも本学部の学生の平均スコアが高くなっているのが分かります。また、入学時のスコアはそれほど高くないものの、本学部では入学直後から集中的に英語を勉強するため、入学時(4月)と1年生終了時のベストスコアを比較すると、大幅にスコアが伸びているのが分かるかと思えます。

(資料2)



■ TOEIC® Testsを前向きに受験させる工夫

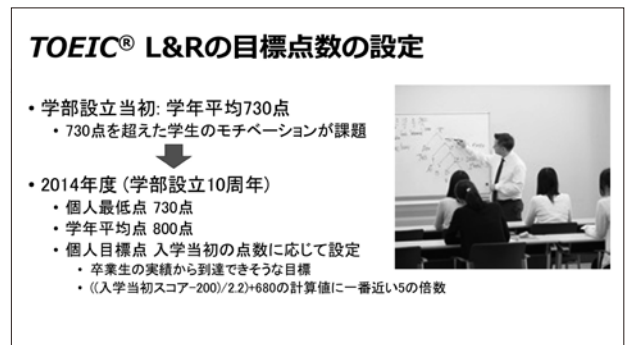
TOEIC Testsに対する学生への動機付けについては、以下の6点を念頭に実施しています。

1点目がTOEIC Testsのプレースメントテストとしての活用です。2年生と3年生の前期クラスはTOEIC L&RとTOEIC S&Wの4技能のスコアを、このほかの1年生の前・後期、2年生と3年生の後期はTOEIC L&Rのみのスコアをクラス分けに反映させています。できればTOEIC S&Wも前・後期の年2回受験させ、そのスコアをプレースメントとして反映したいと考えています。

2点目は、TOEIC S&W受験に向けた事前学習科目の開設です。12月のTOEIC S&W受験に合わせ、後期にCALL教室を使用して実施しています。1回あたり2コマ連続の合計3時間となっており、8週間で修了します。TOEIC S&W受験の直前に授業が修了するよう工夫することで、授業で練習したことをテストでそのまま活かせるようになっています。

3点目は、TOEIC L&R目標点数(個人最低点、学年平均点、個人目標点)の設定です。設定の経緯と内容をまとめたものが資料3です。

(資料3)



学部設立当時は、学年平均730点という1つの目標だけを設定していました。しかし、目標クリア後のモチベーションの維持が課題として出てきたため、2014年度の学部設立10周年を機に目標を見直し、個人最低点を730点、学年平均点を800点と決めました。さらに、スコアの個人差間のばらつきを考慮し、個人目標点も設けました。この個人目標点は、入学当初の点数に応じて、過去の10年分の卒業生の実績から逆算し、到達可能な目標として作ったものです。個人目標点が最も低い学生で680点となり、個人最低点である730点とはギャップがありますが、入学当初のスコアが200点前後の学生でも現実的にクリア可能な目標として設定しています。

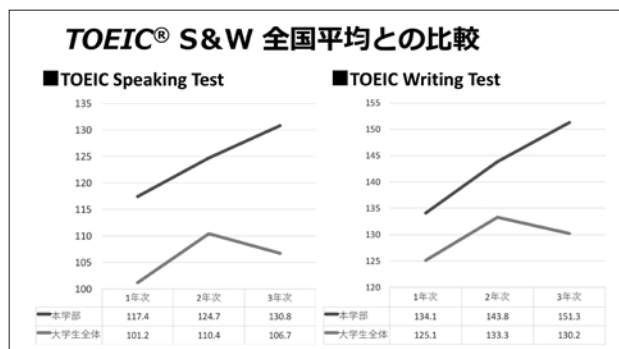
S&Wは導入当初からIIBCより派遣してもらっています。特にTOEIC S&Wはコンピュータを使うため、我々だけではトラブル発生時の対処が難しいと判断したためです。派遣費は部屋数や拘束時間、交通費などで変わり一律ではありませんが、本学の場合は学生1人当たりの負担は約3,000円で収まっています。試験当日は、責任者である英語コミュニケーション課程長も会場で待機します。

試験形態についてです。TOEIC S&Wはこれまで、IIBCから借用したラップトップパソコンを使い、キャンパス内で実施してきました。しかし2020年度は、コロナ禍により本学部も遠隔授業となったため、各自自宅でオンラインテストを受験してもらいました。自宅での受験が困難な場合には、大学のCALL教室で監督付きで受験してもらいました。ただし、自宅受験では不正行為を完全に防ぐことは難しいと判断し、単位認定は行わずプレイズメントとしてのみ使用しました。2021年度からはCALL教室を会場として、パソコンもIIBCからの借用ではなく大学のものを使って実施する方針です。そのため、試験当日は学年ごとに受験時間を3回に分けて行う予定です。

■ 学部生の英語発信力は全国平均より高く推移

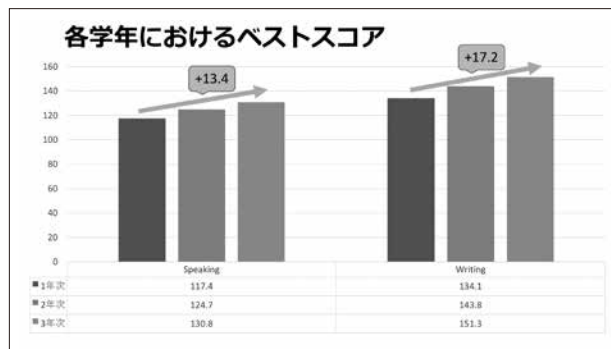
本学部生の TOEIC S&W スコアがどれくらい伸びているかを説明します。資料6はIIBCが公開している全国の大学生と本学部のTOEIC S&Wの学年別平均ベストスコアの比較です。TOEIC® Speaking Testでは、いずれの年次でも本学部の平均が20点ほど高いスコアをキープしています。TOEIC® Writing Testでも同様に10~20点ほど全国の大学生平均を上回っています。

(資料6)



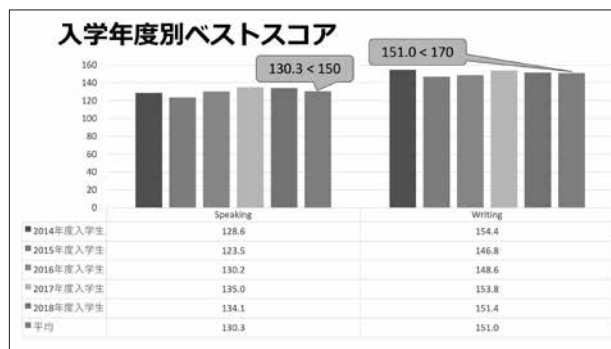
資料7は、過去5年間の卒業生の学年別におけるベストスコアの平均です。1年生から3年生までに、TOEIC Speaking Testは約13.5点、TOEIC Writing Testは約17点伸びています。

(資料7)



大学4年間におけるTOEIC S&Wのベストスコアを入学年度別にまとめたものが資料8です。平均をみると、TOEIC Speaking Testは約130点で、学年平均の目標スコアである150点には達成していません。TOEIC Writing Testも約150点ですので、目標スコアの170点には達していません。

(資料8)



TOEIC S&Wにおいて、まず個人最低目標点であるTOEIC Speaking Test130点、TOEIC Writing Test150点を何割の学生がクリアしているかを見てもみると、2014年度から2018年度の入学生の平均では、スピーキングは62%、ライティングは70%の学生がクリアしていました。一方、学年平均目標点である TOEIC Speaking Test150点、TOEIC Writing Test 170点を達成したのは、残念ながら下がり、スピーキングは約20%、ライティングは約10%となっています。個人目標点は本学の過去のデータに基づく実情を反映したのではなく暫定的に設定した

こともあり、TOEIC Speaking Test、TOEIC Writing Testともに1%ほどの学生しか達成できていません。

■ TOEIC® S&W導入で見てきた課題をカリキュラムの改定に活かす

これらの結果から分かったTOEIC S&W導入の成果と課題についてお話しします。

成果として挙げられるのは、発信力の評価と向上です。しかしながら、スピーキングの方がライティングよりもそもそものスコアが低く、3年間英語学習を頑張ってもライティングの方が伸び、スピーキングは伸びにくいことが分かりましたので、課題であるスピーキング力をいかに伸ばすかという視点でカリキュラムの改定を行いました。オールイングリッシュの専門科目を増やし、スピーキング活動にさらに取り組ませる方針です。改定後のカリキュラムの成果は今後の検証だと思っています。

課題はたくさんあります。まずは、スピーキング、ライティングともに目標スコアに届いていないという点です。特に個人目標点の達成率はかなり低いです。達成率が低い理由の1つとして考えられるのは、学生の主な関心が知名度も高く就職活動でも使えるTOEIC L&Rに向きがちであることです。また、プレイメントテストとして使用する回数もTOEIC L&Rと比べるとTOEIC S&Wは3分の1と少なくなっています。

実は、2年生の必修科目の1つに「TOEIC Lab」という自律学習があります。これは、英語コミュニケーション課程常勤教員のアドバイジングを受けながら各自で教材や日程を決めてTOEIC Testsのスコアを上げるための勉強をするというものです。この授業の単位付与条件として、30時間の自学自習に加えてTOEIC L&R 600点達成を求めているため、学生の意識だけでなく教員もTOEIC L&Rの指導に力が入り、偏りが出てしまっています。

TOEIC L&Rの最高スコアが990点なのに対し、TOEIC S&Wは400点とスコアレンジが小さいため、TOEIC L&RよりもTOEIC S&Wはスコアが伸びづらい印象を与えてしまいがちでもあります。さらに本学では、TOEIC L&Rは入学式の午後に第1回目を受験するのに対しTOEIC S&W

の1回目受験は1年生の12月と、最初の受験から最後の受験(3年生12月)までの期間が短いこともスコア向上の難しさにつながっているのではないかと考えています。

受験回数自体もTOEIC L&Rは計7回、TOEIC S&Wは計3回と少ない現状にあります。できれば前・後期に各1回ずつ受験させたいとも思うのですが、受験料がハードルになっています。

また、個人目標点の設定点数が高すぎたということも考えられます。TOEIC L&Rのように予測に活用できるデータがなかったために暫定で設定したところ、高すぎる目標を設定してしまったということです。今後については、蓄積されてきたデータを基に改定案を作成し、より妥当な個人目標点を設定していきたいと考えています。

■ 学生もTOEIC® S&W受験の意義を実感

最後に、TOEIC S&W 受験後の学生たちの感想をご紹介します。「TOEIC Speaking Testを受験してみて、テストには時間制限があるので、時間内に適切に伝え切ることや、あまり考えこまずに話す練習ができると感じました」「自分のスピーキング力を採点できるテストが他になかったのよかったです」「受験する前からスピーキング力には自信があったのですが、客観的な評価で今のレベルを可視化できました」「できたところとできなかったところがスコアレポートで確認できたので、自分の課題を把握するのに役に立ちました」「TOEIC Writing Testを受けたことで、句読点の位置や文末に“Sincerely”を置くといったことを、受験後意識するようになりました」など様々な意見がありました。概ね皆、TOEIC S&Wの受験を好意的に受け止め、その後の英語学習に活かしているようです。

質疑応答

Q TOEIC S&W科目の具体的な授業内容を教えてください。

A 8週間の授業内では、毎週、教員が問題形式を変えた教材を用意し、練習しています。最初に教員がサンプル問題とその解答例、コツなどを提示します。その後いくつかの問題に取り組んでみて、解答を共有・検討します。最後に実際のテストに近い状態で問題に取り組み、再度答えを共有し検討する、という流れです。授業の3分の2はスピーキングの内容で、残りがライティングとなっていますが、ライティングの内容で授業時間中に終わらなかった部分は宿題にしています。

Q コロナ禍の中、授業での発話練習の工夫を教えてください。

A 2021年度前半は、群馬県内の感染状況は比較的落ち着いていたこともあり対面で授業を実施しています。本学部でも、グループワークなどを行う際に気をつけるべきポイントを説明したり、マスクの着用を指導したりしています。席の間隔を空けることなどについては可能な範囲でフレキシブルに対応しているのが実情です。

Q 日本人の教員が担当するオールイングリッシュの授業の割合はどのくらいですか。

A 英語の授業はほぼ英語で行われており、その授業の約7割を英語母語話者が担当しています。日本人で日本語を使って授業を行う教員は非常勤講師が若干名いるのみで、ほとんどの日本人教員は英語で授業をしています。専門科目については、英語母語話者は全て英語で行っています。日本人教員は、英語のみで行う授業と日本語をメインに使用する授業の両方を担当しています。

Q TOEIC S&W受験後の学生へのフィードバックはありますか。特に個人最低点に達しなかった学生に対するフォローについて教えてください。

A TOEIC L&Rも含めて、あまりスコアが伸びない学生については教員が個別指導をする自律学習があります。3年生終了時点でTOEIC L&Rが個人最低点に達していない学生には4年生以降も受験するよう勧めています。就職活動などにより全員とはいえませんが、一定数の学生が受験しています。ただ、TOEIC S&Wは機材の関係で受験者数が限られるため、4年生は受験させていません。もちろん、一般的なスコアやアカデミックな内容については、本学部のアドバイザーが定期的実施する面談でフォローアップをしています。

Q 学生へ自律学習を促す工夫を教えてください。

A 先ほど、2年生の自律学習「TOEIC Lab」について紹介しましたが、自律学習は必修科目になっています。「TOEIC Lab」以外に4単位分が必修のため、学生たちは何らかの自律学習をしなくては卒業できないという意識で取り組んでいます。英語自律学習には「TOEIC Lab」のほか、短期留学用の「海外語学実習」、web上の教材を使った「リスニング」、TOEIC L&Rの学習を行う「TOEIC」、先ほどご紹介したTOEIC Testsのスコアが伸びない学生に対する教員の個別指導や長期休業中の多読などがあります。

TOEIC® S&Wの
Proficiency Levelは
こちら



https://iibc.me/sw_guide_210910

発行月：2021年 11月

発 行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル
TEL (03) 5521-5012

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル
TEL (052) 220-0282

大阪

〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL (06) 6258-0222

公式サイト

<https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication